

海外からの低価格商品の流入などにより、
 厳しい経営環境が続く
 繊維業界において、
 独自の技術を活かしながら
 積極的に商品開発を行なう
 丸安ニット株式会社。
 オリジナルブランドを展開し、
 国内だけでなく
 海外へと販路を広げる、
 代表取締役の伊藤安則さん
 にお話を伺いました。

丸安ニット株式会社

代表取締役・ITO YASUNORI

伊藤 安則さん

Company Data | 会社概要

丸安ニット株式会社

[創業] 1933年
 [所在地] 名古屋市西区秩父通1-58
 [TEL] 052-522-2171
 [URL] <https://www.maffon.com>
 [事業内容] ニット生地編立製造、
 オリジナルブランド商品の販売



人との出合いを商機につなげ、 メイドインジャパンを世界へ

厳しい状況が続く
 繊維業界に見えてきた
 新たな光明

当社は今年で創業87年目を迎える生地製造業者です。私の祖父が1933年に創業した当時は、メリヤスと呼ばれる肌着用の綿ニットを製造していました。1970年代に先代社長(現 会長)が他社との差別化を図るため、ヨーロッパから特殊な編み機を導入してからは、複雑なジャガードニット生地の製造に特化した会社として成長しました。現在では国内外の大手アパレルブランドや国内自動車メーカーの自動車シート用のニット生地を手掛けているほか、ウールや化学繊維も編んでいます。

取引先からの材料支給による受託製造が仕事の約6割を占めています。海外からの低価格商品の流入などの影響で、仕事量が減少することも取引先から値下げ要請が続いている厳しい状況です。経済産業省繊維統計月報の数字

字を見れば一目瞭然で、2000年に約11万トンあった国内生産量は、2013年に約6万トンへと大幅に減少しています。

しかし、悪い話ばかりではありません。ここ数年で、中国をはじめとするアジアから輸入される画一的な廉価商品に嫌気がさした消費者から、感性を刺激する付加価値の高いものづくりを求める声が上がりに始めています。また、素材に対する関心も高まっており、化学物質を使わない安心・安全な原料および製法であることなどが重視され、環境に配慮したライフスタイルや商品を好む消費者が増えてきました。アパレル各社においては、海外での生産コストの上昇や安全面での問題から日本のものづくりを見直す動きがあり、「国内回帰」の機運が高まっています。



本社の地下1階と2階にある全16台の丸編み機のほとんどが24時間フル稼働しており、お客様の要望に合わせたスピーディーな対応が可能です。



社名の由来 /



丸編みのニット生地を取り扱っていたことから「丸」と、安心・安全の「安」を組み合わせ、創業者である祖父が社名を「丸安ニット」としました。創業間もない頃は「丸安商店」と名乗っていたと聞いています。

愛用のアイテム紹介 /

パターン帳



今まで製造した生地の企画や使われている材料の混入量を記載し、実物の生地を貼り付けた見本帳です。商談などに持ち参し、生地について詳しく説明するのに、欠かせないアイテムとなっています。

仕事で大切にしていることは /

人との出会いと、
気兼ねなく意見を
言い合える人間関係。

当社の商品開発と販路開拓は、取引先や販売店店頭でのお客様との会話をベースに行なっています。人との出会いは偶然ではなく必然だと考え、いつも相手と真剣に向き合って対話するように心掛けています。

小回りの利く
事業規模を武器に、
世間のニーズに即対応する



マフオン
maffon

リバーシブルジャガードニット生地を主軸としたオリジナルブランド。国内でもこのような生地を編める製造業者は少なく、表裏に同じ柄が色違いで配置された生地は、ハンドメイド好きから高い支持を得ています。



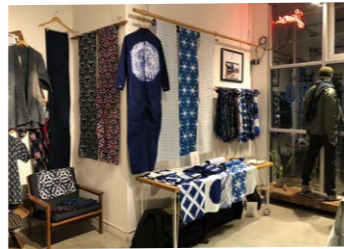
美濃和紙糸

岐阜県美濃地方で1300年以上前から生産される美濃和紙を原料に、尾州地域特有の繊維技術を施して作られた糸です。原料の美濃和紙は2014年に、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。



シフォン
Siffon

吸水速乾性と耐久性に優れ、軽量感のある美濃和紙糸で織られた生地を使用した商品を展開するオリジナルブランド。商品開発を積極的に進め、靴下、ポロシャツ、ネクタイなど、ラインナップは豊富です。



新商品の共同開発

尼ヶ坂にあるデザイン会社の株式会社ZAKで代表を務める今枝氏が手掛ける有松絞リブランド「有松絞染」と、美濃和紙糸をコラボレートさせた商品を共同開発。「日本より世界へ」を合言葉に、海外での販売を実現しています。



オリジナルブランドの
展開でつかんだ
ビジネスチャンス

変化が見え始めた消費者ニーズや業界の動向に対応するとともに、受託製造を主軸にしたビジネスモデルからの脱却を図ろうと、当社では2006年からオリジナルブランドの展開を始めました。その第一弾が、リバーシブルジャガードニット生地ブランドの「maffon」です。リバーシブルジャガードニット生地は、2枚の薄い天竺生地がガーゼ状に重なり、ジャガード(柄)部分が接結されて1枚の生地となっているため、表と裏で異なる配色の逆転した柄を楽しむことができます。何度洗濯しても変わらない安定した品質と、使い込むごとに風合いが増す柔らかな肌触りが特長で、コンピュータ制御のジャガード編み機と熟練工の長年のキャリアに基づく技術なくしては作れません。

当社が独自に企画している生地デザインも売りのひとつで、他では手に入らない生地としてハンドメイド好きの女性を虜にしています。オンラインショップで販売するとすぐに完売してしまうほどの人気です。そして2013年には、美濃和紙から作った糸を使った商品を取り扱うブランド「Siffon」を立ち上げました。吸水速乾性と耐久性に優れ、抗菌作用による脱臭効果の高い美濃和紙の特性を活かし、靴下やポロシャツ、ネクタイ

など、様々な商品展開を行なっています。直近では世間的な需要の高まりを受けて抗菌消臭作用のある和紙マスクの製造にも着手し、4月末から店舗販売を開始しています。

美濃和紙糸の開発にあたっては、かつて私が勤めていた紡績会社での経験と人脈を活かし、産地である岐阜県美濃市の製紙会社と連携。試行錯誤の末にできた糸で編み上げた生地は、木綿よりも軽く、インクジェットプリンターでの色付けが容易でありながら洗濯しても色落ちしないのが特長です。おかげさまで「Siffon」ブランドの商品は、名鉄百貨店本店8階「わしだがやショップ」や円頓寺「わざもん茶屋」など、複数の店舗で販売していただいています。

販路の開拓では、名商主催の商談会の参加、百貨店の催事や展示会などへ積極的に出展しました。そこで出会った人々からの意見やアドバイスを参考に商品開発を進めたからこそ、現在の「Siffon」ブランドがあるといっても過言ではありません。なかでも、北区の尼ヶ坂にあるデザイン会社の株式会社ZAKで社長を務める今枝氏との出会いは、海外展開への道を拓いてくれました。今枝氏が手掛ける有松絞リブランド「有松絞染」と美濃和紙糸を組み合わせる商品開発した和紙デニムやストールは、ニューヨークの老舗デニムショップ「ブルックリンデニム」で販売されており、日本文化に関心の高いニューヨークから好評を得ています。

さらなる海外展開を
視野に入れ、
創業100年を目指す

今後は国内のみならず海外に向けた販売を強化していきたいです。そのためにも、世界的な取り組みとなっているSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、製造工程のロスや無駄を省き、和紙糸のような再生可能な素材によるものづくりに注力していく必要があると思っています。昨年出展した海外での展示会やイベントでも、素材に関するこだわりや背景を説明するとお客様から非常に良い反応が返ってきました。これから先も国内外を問わず出会った人たちの意見を参考に事業のブラッシュアップを継続し、新たな繊維業の在り方を確立させ、100年企業を目指して頑張っていきたいですね。